



# リリース ノート

## Workload Factory for NetApp Console

NetApp  
October 07, 2026

# 目次

|                                                                 |   |
|-----------------------------------------------------------------|---|
| リリース ノート .....                                                  | 1 |
| NetApp Console の Workload Factory の新機能 .....                    | 1 |
| NetApp Workload Factory の FSx for ONTAP ワークロードに関する既知の制限事項 ..... | 1 |
| FSx for ONTAPストレージワークロードの既知の制限事項 .....                          | 1 |
| FSx for ONTAPデータベースワークロードの既知の制限事項 .....                         | 3 |
| EDAワークロードの既知の制限事項 .....                                         | 6 |

# リリース ノート

## NetApp Console の Workload Factory の新機能

ワークロード管理、サービス管理、ストレージ機能、権限などのアップデートや機能強化など、NetApp ConsoleのWorkload Factoryの新機能についてご確認ください。

[[30-september-2026]] == 2026年9月30日

### Workload Factory 向け Oracle Cloud Infrastructure NetApp ストレージサービスの初期リリース

Workload Factory 向け OCI NetApp Storage Service (OCI NSS) の初期リリースでは、オンボーディング、システム検出、クレデンシャル管理、リンクの作成と関連付けが提供されます。OCI NSS へのアクセスをリクエストするには、Oracle にサポート チケットを発行してください。

### NetApp Console ユーザー向けの Workload Factory ドキュメント

Workload Factory の詳細なドキュメントは NetApp Console で確認できます。これには、オンボーディング、システム検出、認証情報管理、リンクの作成と関連付けに関するガイドが含まれています。

## NetApp Workload Factory の FSx for ONTAP ワークロードに関する既知の制限事項

今回のリリースでサポートされていない、または今回のリリースでは正常に機能しないプラットフォーム、デバイス、機能が記載されています。以下の制限事項は、NetApp Workload Factory における Amazon FSx for NetApp ONTAP に特有のものです。これらの制限事項をよく確認してください。

### FSx for ONTAP ストレージワークロードの既知の制限事項

#### 地域サポート

以下の AWS リージョンはサポートされていません：

- 中国地域
- シークレットクラウド
- Top Secret Cloud

#### HAペア追加の制限事項

- この操作には約30分かかる場合があります。
- HAペアを追加すると、以下の操作が制限されます：HAペアの追加、IOPSのプロビジョニング、SSD容量の増加、スループット容量の更新。

## スループット容量のリージョンサポート

### スケールアップ展開

スケールアップ構成は、すべてのリージョンで最大2 GB/sまでサポートされています。以下のリージョンは、スケールアップ展開において最大4 GB/sのスループット容量をサポートします：米国東部（オハイオ）リージョン、米国東部（バージニア北部）リージョン、米国西部（オレゴン）リージョン、およびヨーロッパ（アイルランド）。

### スケールアウト展開

以下の地域では、スケールアウト展開において最大6 GB/sのスループット容量がサポートされます：米国東部（バージニア州北部およびオハイオ州）、米国西部（カリフォルニア州北部およびオレゴン州）、欧州（フランクフルト、アイルランド、ストックホルム）、アジア太平洋地域（シンガポールおよびシドニー）。

### 容量管理

- ボリュームの自動拡張機能は現在、iSCSIプロトコルではサポートされていません。
- 自動容量管理機能稼働中の場合、手動での容量増加は許可されません。
- 自動容量管理機能の無効化は、有効化に使用したのと同じ権限でのみ可能です。
- 自動容量管理が有効になっている場合、ストレージ容量の増加に合わせてボリュームinodeが増加するようにするためのリンクが必要です。

## Storage VM

ストレージVMの数は、SKUごとに制限されています。Workload Factoryでは、制限を超えるストレージVMの作成はサポートされていません。<sup>1</sup>

ファイルシステムあたりのSVMの最大数については、AWSドキュメントの["FSx for ONTAPストレージ仮想マシンの管理"](#)を参照してください。

### iSCSIプロトコルのサポート

- iSCSIプロトコルは、FlexVolボリュームでのみ利用可能です。<sup>1</sup>
- iSCSIボリュームでは、ボリュームサイズの縮小はサポートされていません。

### データ保護

- スナップショットは削除できません。
- ファイルシステムをレプリケートすると、ファイルシステム内のすべてのボリュームが同じレプリケーションポリシーを使用します。
- 長期保持レプリケーション関係の場合、復元に利用できるのは最新のスナップショットのみです。
- 不変スナップショットでは、以下の機能はサポートされていません：
  - 整合性グループ
  - FabricPool
  - FlexCacheボリューム
  - SMTape

- SnapMirrorアクティブ同期
- -schedule パラメータを使用したSnapMirrorポリシー規則
- SnapMirror Synchronous
- SVMデータの移動（ソース クラスタからデスティネーション クラスタにSVMを移行または再配置する場合に使用）

## ストレージ節約計算ツール

ストレージ節約計算ツールは、以下の構成についてはコスト削減額を計算しません：

- FSx for Windows File Server：HDD ストレージタイプ
- Elastic Block Store（EBS）：st1、sc1、および標準ボリュームタイプ
- Elastic File System (EFS)：バーストスループットモード

## AWS Secrets Managerのサポート

コンソールエージェントを使用する場合、AWS Secrets Managerはサポートされていません。

## Amazon S3アクセスポイントの制限

ストレージVMあたりのS3アクセスポイント数の上限は4,000です。

## ストレージVM移行レプリケーションの制限事項

- Workload Factoryは、第1世代と第2世代のFSx for ONTAPファイルシステム間でのストレージVMの移行レプリケーションをサポートしていません。
- S3アクセスポイントまたはONTAP S3設定（vserver上のobject-store-server、バケット、ユーザー、グループ、ポリシーなど）を含むボリュームでは、カットオーバーレプリケーションはサポートされていません。

注：

1. 環境 Amazon FSx for NetApp ONTAP

## FSx for ONTAPデータベースワークロードの既知の制限事項

### インスタンス検出のサポート

Workload Factoryは、Amazon Linuxオペレーティングシステム上でのみ実行されているPostgreSQLインスタンスと、Red Hat Enterprise Linux上でのみ実行されているOracleインスタンスの検出をサポートしています。

### AMIイメージバージョンのサポート

各SQLバージョンにつき、AMIイメージの最新版または改訂版を最大4つまで表示します。最新の4バージョンより古いAMIイメージからのインストールは許可していません。

## カスタムAMI

カスタムAMIを使用したデプロイメントでは、インストールメディアがイメージ内に含まれていることが前提となります。これは、FCIの設定において以下の理由から必要となります：

- FCIクラスタを形成するためにアンインストールして再構成する
- スタンドアロン展開用にイメージに設定されている照合順序以外の照合順序を選択する場合

デプロイメントの一環として、Workload Factoryは複数のMicrosoft SQL Serverインスタンスを含むカスタムAMIをインストールしません。デプロイメントの一環として、デフォルトのMicrosoft SQL Serverインスタンスのみが選択され、構成されます。

デプロイが失敗した場合はロールバックして再試行する

Workload Factoryでは、デプロイ失敗時のロールバックと再試行はサポートされていません。AWSのCloudFormationコンソールから、失敗したスタックをロールバックまたは再試行できます。

## Active DirectoryとDNSリソースのロールバック

AWSのCloudFormationコンソールからテストまたは失敗したデプロイメントをロールバックした場合、以下のDNSリソースはActive DirectoryおよびDNSから削除されません：

- SQLデプロイメントの各ノードの管理IPアドレスへ
- FCIの場合のEC2インスタンスの予約済みセカンダリIPアドレスへのWindowsクラスタ名
- FCI 内の両方の EC2 インスタンスから 2 つの予約済み IP アドレスへの SQL FCI 名

これらのエントリは手動で削除するか、ドメインが古いエントリを削除するまで待つ必要があります。

## Always On可用性グループ構成のサポート

Workload Factoryでは、Always On可用性グループの構成管理はサポートされていません。

## カスタム暗号化キー

FSx for ONTAPのカスタム暗号化キーは、サービスへの適用性に基づいてリスト化されているわけではありません。適切なキーを選択する必要があります。AWSマネージドキーは、サービスへの適用性に基づいてフィルタリングされます。

## CloudFormationテンプレート

ダウンロードまたはコピーされたCodebox生成CloudFormationテンプレート（YAMLファイル）の保持期間は7日間に制限されています。

## サンドボックスのサポート

データベース サーバから作成できるサンドボックスクローンの最大数は90です。

## Microsoft SQL Serverの検出と管理

Microsoft SQL Serverの検出結果は保存されません。Workload Factoryでデータベースにアクセスするたびに、Microsoft SQL Serverの検出が再度実行され、リージョン内のSQLインストールが特定されます。

## コスト削減効果の確認

インベントリタブに表示される各Microsoft SQLインスタンスの推定コストは、SQLインスタンスをホストするボリュームではなく、FSx for ONTAPファイルシステムレベルで計算されます。

## 複数のFSx for ONTAPファイルシステム

Workload Factoryは、複数のFSx for ONTAPファイルシステムを使用するMicrosoft SQL Serverの構成の作成または保存をサポートしていません。1つのFSx for ONTAPファイルシステム構成の導入のみがサポートされています。

## 最適化の制限

### コンピューティングリソースの最適化

特定のインスタンスタイプに変更すると、ネットワーク構成がリセットされ、最適化中にノード接続障害が発生し、ジョブが失敗する可能性があります。DNS設定とiSCSIセッションの確認および更新には、手動での介入が必要になる場合があります。EC2のサイズ変更制限に関する詳細については、["Amazon Elastic Compute Cloud のドキュメント"](#)を参照してください。

### ONTAPおよびOSの構成の最適化

ONTAP設定およびOS設定では、複数の SQL Server インスタンスの一括最適化はサポートされていません。

### 最適化のためのオペレーティングシステムパッチ評価

最適化を目的としたオペレーティングシステムのパッチ評価は、プライベートネットワークでは機能しない場合があります。この評価はAWS Patch Managerに依存しています。プライベートネットワーク内のWindows EC2インスタンスにパッチを適用する方法については、AWS Cloud Operations Blog ["AWS Systems Manager を使用してプライベートサブネット内のWindows EC2インスタンスにパッチを適用する方法"](#)を参照してください。

### クロスリージョンレプリケーション評価

- ターゲットのFSx for ONTAPファイルシステムが別のAWSアカウントにある場合、最適化評価ではクロスリージョンレプリケーション（CRR）が使用されているかどうかを判断できません。
- Workload Factoryは、ソースFSx for ONTAPファイルシステムのCRR構成のみを評価します。

## オンプレミスでの節約額の計算

Microsoft SQL Serverオンプレミスストレージのボリュームサイズのコストと節約率の計算は考慮されていません。

## 節約を探索する際のデータベースホスト認証

権限が制限されている場合、認証が成功した後でも、explore savingsページでデータが読み込まれないことがあります。

## NetApp Backup and Recoveryとの統合

保護のためにホストをNetApp Backup and Recoveryに追加した後、データベースの検出が失敗する場合があります。

## SUSE Linux Enterprise Server 12 への Oracle の登録

SUSE Linux Enterprise Server 12にOracle Databaseを登録する際、Workload FactoryはPythonの依存関係をインストールしません。必要なPythonのバージョンを手動で設定する必要があります。Workload Factoryは最低でもバージョン3.6が必要ですが、バージョン3.11を推奨します。

## EDAワークロードの既知の制限事項

オペレーター権限が必要です

NetApp Workload Factory for EDAが正しく機能するには、オペレータ権限が必要です。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。